



集って、楽しんで、学んで、動いて、変えていく

社会教育スタッフ企画幹 品川 智成

4月末のある晴れた休日の午後、我が家の周りでは子どもたちの楽しそうな声が響いています。2歳児から小学校5年生までの7～8人がすぐそばを流れる小川に集まっています。

その小川の周辺は、近所のおじいさんがいつもきれいに草を刈り、整備してくださっています。恵まれた環境の中で、年上の子どもが年下の子どもの手を引きながら、小川に入って何やらはじまりました。どうやらオタマジャクシをつかまえているようです。

つかまえたオタマジャクシを家に持ち帰ったのは、我が家の4歳児と小学4年生の息子でした。大した世話はしていませんでしたが、日々次第に体長が大きくなりました。後ろ足が生え、前足が生え、尻尾が吸収されて、約一ヶ月後とうとうカエルに変身しました。その間、兄は弟に少し偉そうに知っている知識を伝えます。そして、毎日のように頭をくっつけて小さな水槽をのぞき込み、オタマジャクシの体や動きに変化がある度に、二人で喜んでいました。しかし、世話の仕方がまずかったのか、カエルになってすぐに動かなくなっていました。二人は庭にお墓をつくり、涙のお別れをしました。



このことをご近所のお父さんに話したところ、「当番でお世話をして、子どもたちみんなにオタマジャクシの変身を見せたかったですね。」と言われ、ハッとしました。ご近所ぐるみでオタマジャクシを育てようなんて発想が私にはまったくありませんでした。私は社会教育主事なのに。人と人をつなぎ、必要な学びを創造し提供することが役目でありながら……。地域生活では、ご近所の親子のかかわりづくりと学びのチャンスを逃してしまいました。今後は、島根県が大切にしてきた社会教育流儀「集って、楽しんで、学んで、動いて、変えていく」を常に意識したいと反省しきりです。

さて、このように穏やかな生活に身を置いている今の私ですが、俯瞰して将来を見据えてみると、明るく生き生きと暮らし続けることができ、魅力にあふれ活力ある地域社会の実現に向けた取組を今から進めることの必要性に気づかされます。

島根県では、過疎化・高齢化が進む中山間地域・離島において長期的な視点に立った地域づくりを推進していくために、第4期中山間地域活性化計画を本年5月に策定しました。

では、ここで、問題です。(3択)

- ① 島根県の面積の (47% 67% 87%) が中山間地域です。
- ② 島根県の人口の (25% 45% 65%) が中山間地域で暮らしています。

※「しまねの郷づくりカルテ」で県内の地域情報を収集することができます。一度ぜひ検索を!!

この計画では、公民館エリアを基本として公民館活動と連携し、住民同士の話し合いを通じて、「小さな拠点づくり」＝「地域運営(「生活機能」「生活交通」「地域産業)」の仕組みづくり」に取り組むこととしています。

地域の有する多くの財産は、先人の手によって守られ、大切に受け継がれてきました。その大切な財産を将来にわたり維持し、今後も安心して人々が住み続けられるようにしなければなりません。そのためには、行政主導ではなく、できるだけ多くの地域住民のみなさんに参画いただきながら、地域の課題や将来の姿を話し合ってもらい、実践に結び付けていくことが大切です。

地域づくりの主役は、住民のみなさんです。そして、住民のみなさんの「集って、楽しんで、学んで、動いて、変えていく」そのプロセスを意図的・計画的に支えていくことが社会教育の役割です。

みんなであつろうて(連れ立って)、オタマジャクシの「変身」を楽しみたいものです。

コミュニティ・スクールに向けて

益田市教育委員会 派遣指導主事 中尾 瑞紀

益田市では、平成27年度より、豊川小学校が第1号コミュニティ・スクール（以下CS）として動き出しています。また、匹見中学校、戸田小学校が、「コミュニティ・スクール導入等促進事業」（2年間 加配措置あり）を受け研究に取り組んでいます。匹見中学校は29年度、戸田小学校は30年度からのCSに指定の予定です。

益田市が目指すCSは右のとおりです。学校に求められる様々な役割や課題に対応していくためには、地域の力は欠かせません。地域と一体となった学校経営が求められている現在、CSはその1つの方法として期待の大きいシステムといえるでしょう。

益田市が目指すコミュニティ・スクール

- 地域と共にある学校運営
- 就学前・学校・家庭・地域の連携
- ふるさと教育の推進(中学校区)

CS第1号の豊川小学校では、読み聞かせや授業講師はもちろん、公民館が鍵の管理を行う地域交流スペースが校内に作られ、日常の交流だけでなく、もの作り教室も開かれています。また、卒業式や入学式に地域の方々の席を用意し、地域からも祝福を受けています。公民館と連携しながら、ふるさとから学び、ふるさとに生まれ、人としてともに成長していく取組を推進しています。本年度からは社会教育コーディネーターも配置されたことで、公民館や他の機関・団体等との連絡調整がより迅速で柔軟になり、取組の活性化が進んでいます。益田市のCSのモデル校として、今後の展開が期待されています。

地域と一体となった学校経営を行うため、CSには学校運営協議会が置かれます。学校運営協議会には、右のような一定の権限と責任が持たされます。協議会での意見は尊重されますが、学校運営の責任者は校長であり、学校運営協議会が校長の代わりに学校運営を決定・実施するものではありません。

- 校長が作成する学校運営の基本方針を承認すること
- 学校運営について、教育委員会又は校長に意見を述べること
- 教職員の任用に関して、教育委員会に意見を述べること

益田市では、CSになるためには、「つろうて子育て協議会」との合意の上で、学校運営協議会設置の申請を益田市教育委員会に提出します。これが認められれば、CSになることができます。本年4月現在で、全14地区のうち9地区の「つろうて子育て協議会」が設立されています。平成30年度までに全14地区の立ち上げに向けて取り組んでいるところです。

CSに興味を持ったあなた
文部科学省ホームページで
「コミュニティ・スクール」で
検索してみましょう。

[検索](#)

